崩れ行く花崗岩

南アルプス　石空沢北沢～赤薙沢ミツクチ沢上部

福本

三か月の乗船でたまった大人の夏休みは、当初予定していた山行がパートナーの仕事の都合で行けなくなったり、家庭の用事が入るなどして思っていたほど山に行けなくなってしまった。それでも八月末に少しまとまった時間が取れたので栗原さんとどこか行くことに。毛猛にしようとか早出はどうかなどいろいろ話が出たが日程や雪渓の状態などで没となり、結局山域は自分の希望で南アルプスに落ち着いた。栗原さんが離山を見てみたいということで、石空沢北沢へ行ってきた。

8/27　晴れ

前日は韮崎の道の駅で仮眠を取る。自分は前日までの海外旅行による時差ボケで一睡もできなかった。精進ヶ滝の滝見道入口に車を停めて入山。滝見道はよく整備されており立派である。15分ほどで九段の滝手前の遊歩道終点に到着し、入渓する。九段の滝は大まかに二段に分かれている。傾斜の緩い下段は右から取りつき中ほどから水流を横切って右岸側から抜ける。一段目抜け口から念のためロープを出した。本番は上段のほうで、出だしは右岸のバンドから捲く。残置ハーケンやカムの利くクラックがある。一度ピッチを切り、最上部は水流左のフレーク状から抜けることにする。出だしはスタンスがないためカムでアブミを設置してA0した。キャメロット＃0.4～1を持って行ったがこれで必要十分だと思う。九段の滝を越すと急なガレ場を挟んですぐに精進ヶ滝120mがそそり立っている。捲きは左岸のルンゼや枝沢を使うことになるが、栗原さんがかなり下調べをしてくれており、滝に近いルンゼに取りつくとはまるらしいとのことなので一番手前の枝沢に沿って登り始める。急でしんどいが特に難所もなく、そろそろ落ち口の高さかな、というところまで高度を上げてから岩棚上を歩きトラバースしていく。落ち口の上を過ぎてすぐにあるルンゼを使って懸垂なしで沢に戻ることができる。その後は小滝をいくつか通り過ぎてすぐに南沢との二股となる。北沢は右股で、小規模なゴルジュの奥に5mの滝がある。通常は左岸捲きだが今回は流木が引っかかっており中を行くことができた。この先はしばらく平凡な河原となる。河原歩きでは花崗岩の粒子をそのままバラバラにしたような砂利が川底にたまっており、これが靴の中に入ってきて痛かった。どこでも泊まれそうで、この辺りを予定テンバにしていたがさすがにまだ早いので先へ進む。地図記号のある50m大滝は右岸の枝沢から捲くが、上部が崩壊して壁になっているため適当なところから右手の灌木の生えた急斜面に移る。傾斜が落ちるまでロープを出した。こちらも落ち口の先にある枝沢を使って沢に戻ることができる。大滝を過ぎると再び穏やかな河原となったため、まだ午前だが睡眠不足を理由にテンバを探すことにさせてもらう。1700m付近のふかふかした草の生えた平地にタープを張る。南アルプスの沢は初めてだが、不快害虫の類がほぼおらず驚いた。

8/28　晴れ

懸念していた雨も降らずさわやかな朝。ゆっくり支度して六時に出発する。1790二股のあたりから勾配が急になり巨岩と滝が続くようになる。この沢の滝はつるつるの花崗岩のナメ滝が多く基本的に取り付くしまもないが、大抵側壁は植生のしっかりした岩棚や鹿道が発達しており容易に捲くことができる。巨岩の乗越ではたまに空身になったりお助けをたらしたりした。同じ花崗岩の沢ということで渓相が屋久島によく似ており、やや大味な印象である。40mの滝は右岸から尾根に取り付き、例によってルンゼから沢に降りる。2160二股近くになると再び渓相が落ち着き、

良いテンバがあった。本来ならこの辺りで泊まると良いのだろう。2160二股で離山のコル（ミツクチ沢の略奪点）に伸びる右股に入ると水が途切れ途切れとなる。この枝沢は気持ちのよい森の散策道といった趣だった。略奪点に到着すると先は切れ落ちた崖となっており、眼前には荒々しいミツクチ沢が見下ろされる。ミツクチ沢は両岸ものすごい崖で、谷の中は崩れた花崗岩の白っぽい茶色をしており、植生に乏しい。この谷の受ける浸食の速さを感じることができる。略奪点からはミツクチ沢の上流すぐに40mほどの迫力のある滝が見え、尾根伝いにこの滝の捲き道に合流するようにしてミツクチ沢に入っていくこととなる。が、その前にザックをデポして尾根伝いに離山まで足を伸ばすことにする。ポコをいくつか越えてザラザラに風化した花崗岩の斜面を登ると離山に到着。離山の岩肌は波打つようで六甲の万物相に似ていた。離山の登りはワンポイントクライミングチックな箇所があり、ポコの乗越も面倒なため、戻りは下りやすいところから登ってきた北沢の枝沢に降りた。再度略奪点に戻り、ザックを背負ってミツクチ沢右岸の尾根を少し登り、鹿道を使って40m滝の落ち口で沢に降り立つ。ミツクチ沢上部は石空川とは異なりゴルジュの中に登れる小滝がいくつも現れる楽しい沢である。適宜お助けを出しながら快適に進む。2350二股からは先に見える屈曲までの間の狭いV字谷の中にピリ辛な小滝が連続しておりおもしろい。以降は急なザレ混じりのゴーロ歩きとなりしんどい。2500付近で水が涸れ、急なザレ場をひいひい言いながら登ると賽の河原に到着。小さな仏様の像が並ぶ不思議な光景が広がる。あとは御座石方面の夏道を使って下山する。早めに降りて車を回収しようと走って先に行くが、途中の分岐で誤って御座石鉱泉に降りてしまったため結果的に栗原さんを待たせてしまうこととなった。下山してから歩き回って疲れた。

DATA

山行日　2023年8月27日（日）～28日（月）

行程　8/27　精進ヶ滝探索路駐車場（6:30）～精進ヶ滝上（9:20）～50m滝下（10:30）～1700付近泊（11:30）

8/28　1700付近（6:00）～略奪点（8:00）～離山往復～略奪点（8:50）～賽の河原（11:00）～駐車場（15:00）

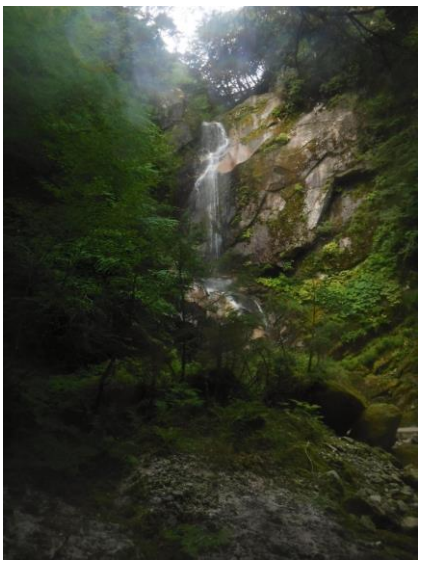
グレード　4級下

地形図　韮崎

メンバー　L 福本、栗原

精進ヶ滝120m

北沢核心の50m滝



容易に捲ける40m滝

離山のコルへの枝沢

離山への登り

賽の河原直下の変な岩

賽の河原